



Ethical Procool

エシカルプロクール

取扱い説明書

下地	下地調整剤		下塗材								防水用	備考	
	封じ込め	アドソリッド	金属系				非金属系						
			弱溶剤プライマーエポ	アクリルサビノン	エシカルプライマー	AGUA-MG100	クールシーラー	水性ホワイトシーラー	ソフトウォール	断熱ソフトウォール			マルチプライマーEP
鉄	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-
鋼	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-
トタン	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-
亜鉛メッキ (Zn)	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-
ステンレス	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	●	-
アルミニウム (Al)	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	●	-
(必着面)	-	(Z.2)	(Z.2)	(Z.2)	●	-	-	-	-	-	-	(Z.2)	-
ケイ酸カルシウム版	● (Z.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	密度0.8以上
PC板	● (Z.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
コンクリート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
ALC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
石膏/スレートボード	● (Z.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
RC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
SRC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
皮膚系サイディング	● (Z.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-
スレート/コルコアルカラーベスト	● (Z.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	●	● (Z.3)	●	-
石棉含有建材	●	-	-	-	-	-	-	-	-	● (Z.5)	-	● (Z.4)	-
アスファルト防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	● (Z.4)	-
塩ビシート防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	● (Z.4)	-
ウレタン防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	● (Z.4)	-
FRP防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	● (Z.4)	-

●本製品は、施工時、必ず封じ込め剤を併用してください。

- 注1) 2004年までに製造された建材の一部には、石棉が含まれている可能性があります。石棉の含有が不明な場合は専門業者による事前調査を推奨致しますが、含有の判断がつかない/または劣化し、多少の作業でも程度の恐れがある場合は適用を推奨致します。(すでに含有が判明している場合は、必ず本剤で飛散防止をしてください)
- 注2) 必ず2種ケレン以上を実施し、清潔な表地を露出させてから、塗装を実施してください。
部分的に2種ケレン以上ができない場合は、当該部分のみAGUA-MG100でタッチアップを実施してから、下塗りを実施してください。
- 注3) 原則として下塗りには油系系塗料を推奨致します。水性塗料を適用される場合は、事前に下地との付着を確認してから作業を実施してください。
- 注4) 各種防水材はできるだけ旧塗層を除去してください(2種ケレン相当推奨)。またFRPについては塗膜前に目塗りが必要で、注5) 石棉含有建材への施工については、必ずアドソリッドを施工し、飛散防止・封じ込め剤を実施してから塗装作業にあたってください。
- 注6) 塗料全般に言える事ですが、亜鉛メッキやアルミとニウムや白びり面は塗料の密着を阻害する要因となります。事前に目塗りしを十分に実施してから施工にあたってください。

施工上の注意事項【改修下地】

1. 剥離した塗膜の表面及び浮き、割れ、剥がれ等をディスクランダー、ワイヤーホイール等の動力工具及びスクレーパー、ワイヤブラシ等の手動工具を使用して、サビ、油分、付着物を除去してください。
 2. 下地のひび割れ部等は、シーリング及び下地調整剤で補修を行ってください。
 3. 粉化物、付着物等は高圧洗浄機を使用し除去、洗浄を行い、その後下地を十分に乾燥させてください。
 4. 下地処理は日陰・下地の調査を行い、劣化状況(劣化レベル)に基づいた適切な処理を実施してください。
 5. 塗布量が少ない場合、防錆性及び付着性が低下する為、必ず標準塗布量を塗布してください。
 6. 汚染箇所(油、シリコン樹脂塗膜)の場合は施工できません。
 7. 必ず適切な遮蔽マスク着用、塩化ビニル皮膚保護は施工できません。
 8. 屋根下地の場合は別途ご相談ください。
 9. 改修工事の詳細については、国土交通省改修工事ガイドブックを参照ください。
- 【その他】
- ・下地調整剤の洗浄に使用される洗浄液によっては、塗膜が変色する可能性があるため、洗浄液の取扱を厳密に、十分注意して作業を行ってください。
 - ・下地の強アルカリ性が予測される場合、エポキシ樹脂が劣化し、仕上り面に影響を及ぼす場合があるので、油系系プライマーを使用してください。
 - ・下地調整剤の方法により、実際の色と見本板の色とは多少異なる場合がありますので、ご注意ください。

**上塗材は使用直前
(工程ごと)に
必ず3分以上攪拌機
(低速回転)で
攪拌してから
塗布してください。**

上塗り材/主材

- 標準塗膜仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
- 材料には有効成分ロスが認められているため、必ず使用直前(各工程)に十分に攪拌機(低速回転)で攪拌して下さい。攪拌が十分でない場合、塗料の劣化が低下する可能性があります。上塗りの最終塗布量は24時間以上です。
- 下地調整剤の工程は塗装工事における責任範囲には含まれません。
- 劣化が激しい2種ケレン系アクリル樹脂塗料、シリコン樹脂塗料の場合は施工できません。
- 乾燥時間(以下、多量用)は90%以上の乾燥は避けて下さい。また、施工後、24時間以内に雨、結露等があった場合、水の影響で色むら、劣化が発生する場合があります。
- 雨降、降雪、強風の場合は施工を避けて下さい。又、作業中に降雨、降雪の恐れがある場合は雨(雪)養生をして下さい。更に、夜間の施工は水気下になる恐れがある場合は午後からの作業を中止して下さい。
- 雨降、降雪、強風、暴風、スコール等の悪天候がある場合は日の照り(以下)に作業を中止し、日没までに十分乾燥させて下さい。日、乾燥が十分でない場合、雨降、降雪、強風等を避け、必ず乾燥が完了するまで待機して施工して下さい。
- 特に結露が発生する地域及び気候での施工は避けて下さい。
- 標準塗膜仕様に準じて作業量及び塗膜厚を厳守して下さい。割れ、剥離、色相劣化などの原因となります。また、主材を一度に厚塗りすると塗膜の割れが発生することがありますので注意して下さい。
- 一度乾燥すると乾かす必要がなくなり、冬季の乾燥・結露の心配はなくなります。
- 材料は直射日光を避け、40℃以下の阴凉所で保管し、直射日光の強いところでのみ使用して下さい。(施工時は材料の保管性を確保して下さい。万一確保出来ない場合は、シート等を被せ保管して保管条件を改善して下さい。)
- その他塗料の取り扱いについては、必ず各塗料の取扱説明書(安全データシート)を参照して下さい。

金属系/下塗り材

- 標準塗膜仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
- 劣化が激しい2種ケレン系アクリル樹脂塗料、シリコン樹脂塗料の場合は施工できません。
- 乾燥時間(以下、多量用)は90%以上の乾燥は避けて下さい。上塗りの乾燥時間は24時間以上です。
- 塗膜中及び塗膜後90%以内(雨降、降雪、強風)が予想される場合は、施工を避けて下さい。
- 材料は直射日光を避け、40℃以下の阴凉所で保管し、直射日光の強いところでのみ使用して下さい。
- 材料を覆ひ戻す場合は、特に劣化に注意し、剥離防止及び劣化防止を徹底して行って下さい。
- 雨降は避けておいて下さい。又、雨降後はなるべく早く使い切ってください。
- 火花を発生させない工具を使用して下さい。静電気放電に対する予防措置を講じて下さい。
- 容器からこぼれた際には、布で拭き取って水で洗った容器に保管して下さい。
- 内容物、容器は国内地方自治体の規制に従って産業廃棄物として廃棄して下さい。
- 目撃や保護具を洗浄した後はそのまま塩水や排水に流すことと密着に密着を及ぼす恐れがある為、排水処理場などの施設に持ち込む場合は産業廃棄物処理業者に処理を依頼して下さい。
- 屋根下地の場合は別途ご相談ください。
- 施工の都合上、作業時間の制限についてはSDS(安全データシート)を参照して下さい。

●2024-03-04 本製品は2024年3月の情報により作成されました。

防水用/下塗り材

- 標準塗膜仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
- 下地の乾燥は十分行って下さい。(含水率10%以下、pH10以下)。既存塗膜に水分が残留すると、割れ・剥離が生じる恐れがありますので十分に乾燥後、上塗りして下さい。
- 水気部で上下の面が塗料で保護されている箇所は必ず、ケレン等で剥離を行って下さい。
- 古い塗膜、塗料の剥離、シーリングの劣化など塗膜チェックを行って下さい。
- 下地調整剤として付着物(油、漆、劣化層)を高圧洗浄機(10MPa程度)で除去して下さい。
- 下地調整剤が不十分だと塗膜の劣化の原因となり、劣化が起る等の仕上り不良になる場合があります。
- 水気部は1日以上乾燥させて下さい。また、劣化層が剥離、剥離などで剥離している場合は十分に乾燥するまで待機して下さい。(ひび割れ、剥離、割れ、剥がれの原因となります。)
- 塗料は、塗布直前にラッカーシンナー等で洗浄して下さい。
- シーラー塗布により、既存塗膜にひび割れ・剥離が生じる場合があります。事前に試し塗りを行って下さい。
- 割れ・剥離が生じた場合は、塗膜を完全に除去して下さい。
- 容器は密閉しておいて下さい。又、雨降後はなるべく早く使い切ってください。
- 塗膜中及び塗膜後90%以内(雨降、降雪、強風)が予想される場合は施工を見合わせて下さい。
- 火花を発生させない工具を使用して下さい。静電気放電に対する予防措置を講じて下さい。
- 火花を発生させない工具を使用して下さい。静電気放電に対する予防措置を講じて下さい。
- 容器からこぼれた際には、布で拭き取って水で洗った容器に保管して下さい。
- 目撃や保護具を洗浄した後はそのまま塩水や排水に流すことと密着に密着を及ぼす恐れがある為、排水処理場などの施設に持ち込む場合は産業廃棄物処理業者に処理を依頼して下さい。
- 施工の都合上、作業時間の制限についてはSDS(安全データシート)を参照して下さい。

非金属系/下塗り材

- 標準塗膜仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
- コンクリート、モルタルなどのアルカリ度(濃度)は水10%以下、pH10以下になるまで十分に乾燥させて下さい。
- 使用前に十分に乾燥させて下さい。雨降又は乾燥の強いところでのみ使用して下さい。
- 乾燥時間(以下、多量用)は90%以上の乾燥は避けて下さい。
- 塗膜中及び塗膜後90%以内(雨降、降雪、強風)が予想される場合は、施工を見合わせて下さい。
- 一般の水性塗料や有機溶剤系塗料と同等に扱いして下さい。
- 日光が直射し、容器が熱くなる場合、塗料の劣化により乾燥が速くなります。
- 施工の都合上、作業時間の制限についてはSDS(安全データシート)を参照して下さい。

製品案内：上塗材

製品名	荷姿	塗布面積 (1工程あたり)	内容	系統
プロクール F	14Kg/ 缶 4Kg/ 缶	90 m ² / 缶 25 m ² / 缶	変性アクリルシリコン樹脂	1 液 水系
専用中塗り材：プロクール F 中塗り	14Kg/ 缶 4Kg/ 缶	90 m ² / 缶 25 m ² / 缶	アクリルシリコン樹脂	
プロクール Si	14Kg/ 缶 4Kg/ 缶	90 m ² / 缶 25 m ² / 缶	変性アクリルシリコン樹脂	1 液 水系
プロクール A	14Kg/ 缶	90 m ² / 缶	アクリル樹脂	1 液 水系

製品案内：下塗材

金属系	製品名	荷姿	塗布面積 (1工程あたり)	内容	系統	
						2種ケレン以上 防錆
	弱溶剤プライマーエポ	16Kg/ 缶	53 ~ 123 m ² / 缶	変性エポキシ樹脂	1 液 弱溶剤	
	アクリルサビノン	16Kg/ 缶	105 ~ 140 m ² / 缶	1 液反応硬化型 エポキシ変性アクリル樹脂	1 液 水系	
	エシカルプライマー-J (強サビ用) ※JIS 仕様	16Kg/Set	95 ~ 114 m ² / 缶	2 液速乾弱溶剤型 変性エポキシ樹脂	2 液 弱溶剤	
	AGUA-MG100	16Kg/ 缶 3.6Kg/ 缶 0.9Kg/ 缶	160 ~ 200 m ² / 缶 36 ~ 45 m ² / 缶 9 ~ 11.25 m ² / 缶	1 液速乾弱溶剤型 エポキシ樹脂	1 液 溶剤	
非金属系	屋根 壁	クールシーラー	14Kg/ 缶	82 ~ 140 m ² / 缶	遮熱用エポキシ樹脂	1 液 弱溶剤
	屋根 壁	水性ホワイトシーラー	15Kg/ 缶	80 ~ 150 m ² / 缶	カチオン系アクリル樹脂	1 液 水系
	壁	ソフトウォール	16Kg/ 缶	10 ~ 53 m ² / 缶 ※塗布方法により異なります	可とう型改修塗材 E	1 液 水系
	壁	断熱ソフトウォール	12Kg/ 缶	12 ~ 24 m ² / 缶	断熱性可とう型改修塗材 E	1 液 水系
防水用	マルチプライマー EP	16Kg/Set	100 ~ 123 m ² / 缶	2 液反応硬化型 エポキシ樹脂	2 液 溶剤	
	マルチプライマー EP 希釈専用シンナー	16Kg/ 缶 4Kg/ 缶	-	エポキシ系シンナー	溶剤	
石棉 建材用	アドソリッド ※下地調整剤	18Kg/ 缶	約 100 m ² / 缶	1 液無機・不燃型 アスベスト飛散防止・封じ込め材	1 液 水系	

製品案内：中塗材

製品名	荷姿	塗布面積 (1工程あたり)	内容	系統	
調板用 防水用	バリストップ	18Kg/ 缶	30 ~ 60 m ² / 缶	アクリルゴム塗膜防水材料	1 液 水系

* JIS 仕様に関しては別途ご相談ください。

標準施工仕様

金属面

<適用下地/銅板屋根・トタン・アルミ・ステンレス等>

工程	製品名	標準塗布量 (Kg/㎡/回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・塗装面の付着物(ミルスケール、埃、苔、藻、ごみ等)は高圧洗浄で入念に除去し、十分に乾燥させてください。 また油分が残存している場合は、油分も除去してください。 ・下地処理は AGUA-MG100 の場合は3種ケレン以上(浮き錆・浮き塗膜の除去)を実施してください。 ・弱溶剤プライマーエポを使用する場合は必ず2種ケレン以上を行い、清浄な素地が露出するようにしてください。 2種ケレンが困難な箇所については、AGUA-MG100 を当該箇所にタッチアップ・乾燥後に下地全体の塗装を実施してください。						
下塗り (いづれか一方)	(2種ケレン以上) 弱溶剤プライマーエポ	0.13 ~ 0.3	1 ~ 2	16時間以上 7日以内	塗料用 シンナー	0 ~ 10%	刷毛 ウールローラー エアレス
	(3種ケレン以上) または工程短縮 AGUA-MG100	0.08 ~ 0.1	2	1時間以上 7日以内	無希釈	-	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	プロクール Si / A プロクール F 中塗り+プロクール F	0.15	2 1+1	3時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス

- ◇オール水系用途の場合の下塗り材: アクアザピン(1液)水系 0.11~0.15kg/㎡・回、塗装間隔 16h 以上 7日以内、清水 0~5%希釈可
- ◇強錆用仕様の場合の下塗り材: エシカルプライマー J(2液)弱溶剤 0.14~0.17kg/㎡・回、塗装間隔 4h 以上 7日以内、塗料用シンナー 0~10%希釈可
- ◇もらいサビ/サビ汁汚れがある場合は、下地調整の段階で AGUA-SR200 を清水で3倍程度に希釈した溶液を塗布し、放置または拭き取りで除去してください。

非金属面

<適用下地/コンクリート・モルタル・スレート・ALC等>

工程	製品名	標準塗布量 (Kg/㎡/回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・粉化物、付着物等は清掃・高圧洗浄し、下地を十分に乾燥させてください。 ・旧塗膜の劣化部分は周辺部分を含め除去し、ごみ、粉塵、油分等の付着物をワイヤーブラシ、ウェス、皮すき、サンドペーパー等で入念に除去してください。 ・下地のひび割れ、傷、不陸、欠損部の修理など補修が必要な箇所は、塗装工事前に実施してください。						
下塗り	クールシーラー	0.1 ~ 0.17	1	16時間以上 7日以内	無希釈	-	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	プロクール Si / A プロクール F 中塗り+プロクール F	0.15	2 1+1	3時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス

- ◇オール水系用途の場合の下塗り材: 水性ホワイトシーラー(1液)水系 0.1~0.18kg/㎡・回、塗装間隔 3h 以上 7日以内、清水 0~5%希釈可
- ◇JIS仕様の場合の下塗り材: エシカルシーラー J(1液)溶剤 0.2~0.8kg/㎡・回、塗装間隔 4h 以上 7日以内、無希釈

防水面

<適用下地/ウレタン防水・アスファルト防水等>

工程	製品名	標準塗布量 (Kg/㎡/回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・高圧洗浄でごみ、汚れ、油分等を入念に除去し、下地の種類によって適切な処理を実施してください。 ・旧塗膜の浮きや脆弱部分を除去し、下地は十分に乾燥させてください。 ※シルバー塗膜上のレベモル施工の場合、シルバー面を完全にシールするように 0.3kg/m ² /2 回塗りをしてください。						
下塗り	マルチプライマー EP	0.13 ~ 0.16	1	16時間以上 5日以内	専用 シンナー	0 ~ 18%	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	プロクール Si / A プロクール F 中塗り+プロクール F	0.15	2 1+1	3時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス

- ◇オール水系用途の場合の下塗り材: 水性ホワイトシーラー(1液)水系 0.1~0.18kg/m²/m 回、塗装間隔 3h 以上 7日以内、清水 0~5%希釈可
- * 防水層への施工については、素地によって多様性がある為、全て要相談です。必ずご連絡ください。

標準施工仕様

壁用(微弾性)

<適用下地/コンクリート・モルタル・スレート・ALC等>

工程	製品名	標準塗布量 (Kg/㎡/回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油分等の付着物をワイヤーブラシ、ウェス、皮すき、サンドペーパー等で除去し、乾燥した清潔な面にしてください。						
下塗り	断熱ソフトウォール	0.5 ~ 1.0	1 ~ 3	5~16時間以上 7日以内	清水	0 ~ 1.2L	多孔質ローラー
		0.5 ~ 1.0	1 ~ 3	5~16時間以上 7日以内	清水	0.6 ~ 1.2L	吹付(リシンガン) 口径: 4~6mm 吹付圧力: 0.5~0.6MPa
	または ソフトウォール	0.3 ~ 0.6	1 ~ 2	5時間以上 7日以内	清水	0.9 ~ 1.2L	ウールロー(中毛)
		0.8 ~ 1.5	1	5時間以上 7日以内	清水	0.3 ~ 0.9L	多孔質ローラー
上塗り	プロクール Si / A プロクール F 中塗り+プロクール F	0.15	2 1+1	3時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス

◇膨れの原因となるので、窯業系サイディングなどには不適です。

石綿含有建材(非金属下地で含有が不明な場合も含む)

工程	製品名	標準塗布量 (Kg/㎡/回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・有機ゴミ(ゴミ、埃、苔、カビ、鳥の糞など)は、予めブラシや掃帚などで取り除き、アドソリッドを散布してください。 ※高圧洗浄や機械工具等の使用は、粉塵の飛散の原因となるので、実施しないでください。						
下塗り	アドソリッド	0.1 ~ 0.17	1	6時間以上 7日以内	無希釈	-	エアレス 噴霧器 など
下塗り	クールシーラー	0.1 ~ 0.17	1	16時間以上 7日以内	無希釈	-	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	プロクール Si / A プロクール F 中塗り+プロクール F	0.15	2 1+1	3時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス

◇旧塗膜が残っている場合や、滑膜面には不適です。
(部分的に浮き塗膜や塗膜が剥がれている場合は、当該箇所のみ本仕様を適用。それ以外の箇所については、非金属仕様を基本としてください。)

中塗材

工程	製品名	標準塗布量 (Kg/㎡/回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法	
下地調整	・下地の種類によって各素材ごとの標準施工仕様通りに、適切な下地処理・下塗り材塗装を行ってください。							
下塗り								
中塗り	金属・ 塗膜防水材	バリストップ	0.3 ~ 0.5	2	5時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	プロクール Si / A プロクール F 中塗り+プロクール F	0.15	2 1+1	3時間以上 7日以内	清水	0 ~ 5%	刷毛 ウールローラー エアレス	

安全衛生上の注意事項

- 取扱い上の注意**
 - ① 取扱い時には必ず保護メガネを装着し、適切な保護マスク、保護手袋、保護服、保護靴を装着して下さい。
 - ② 取扱い時は、手洗い、うがい、歯を十分に下して下さい。
 - ③ 取扱い時、皮膚等に付着した場合は、速やかに流水で洗い流して下さい。
 - ④ 取扱い時、目や顔等に付着した場合は、速やかに流水で洗い流して下さい。
 - ⑤ 取扱い時、呼吸器等に付着した場合は、速やかに流水で洗い流して下さい。
- 緊急時及び応急処置**
 - ① 目に入った場合は、速やかに大量の清水で洗い流し、速やかに医師の診察を受けて下さい。
 - ② 皮膚等に付着した場合は、速やかに流水で洗い流し、速やかに医師の診察を受けて下さい。
 - ③ 吸入した場合は、呼吸器を速やかに洗い流し、速やかに医師の診察を受けて下さい。
 - ④ 吸入した場合は、呼吸器を速やかに洗い流し、速やかに医師の診察を受けて下さい。
- 保管上の注意**
 - ① 保管が0~40℃で直射日光の当たらない場所に保管して下さい。
 - ② 中身の残った容器は、必ず蓋をしっかりと閉鎖し、子供等が触れないようにして下さい。
 - ③ 子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 廃棄上の注意**
 - ① 使用済み容器及び未使用の材料を廃棄する場合は、必ず自治体の指定の場所にて、分別して廃棄して下さい。
 - ② 本材料を廃棄する場合は、必ず自治体の指定の場所にて、分別して廃棄して下さい。
 - ③ 本材料の廃棄は、必ず自治体の指定の場所にて、分別して廃棄して下さい。

- 施工仕様の各数値はすべて標準のものです。施工方法、施工条件により多少の幅が生じることがあります。
- 溶剤系製品をお取扱の際は、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法を厳守してください。